

アドバイザー派遣事業実施報告書

鳥取県立境高等学校

教諭 内門 久美

- 1 主催 鳥取県高等学校書道教育研究会
- 2 対象 鳥取県高等学校書道教員（教諭・常勤講師・非常勤講師）
- 3 期日 平成30年8月16日（木）
午後0時から5時まで
- 4 会場 鳥取県立米子西高等学校 書道室
- 5 演題 『書道Ⅰにおける漢字の書の学習について
～王羲之・顔真卿を中心にして～』
講師 滋賀大学教育学部 教授 中村 史朗 氏

6 講義内容

次の内容について講義、指導助言をいただいた。

(1) 書道Ⅰにおける『漢字の書』の位置付け、教材研究の再考

- ・先生が用意してくださった資料に基づき、漢字の書について説明を受けた。
- ・漢字の書は、書道Ⅰにおいて多くの学校において年度当初に実施される場合が多い。
- ・漢字の書を自分の専門としている教員が多いため、教材研究が偏ったものとなりがちである。
- ・漢字の書の学習でよく取り上げられる「九成宮醴泉銘」があるが、拓本の種類で指導内容が変わることがある。多くの教科書に取り上げられている「端方旧蔵本（三井聴冰閣本）」を使うのか、「李祺旧蔵本」を使うのかで、その古典が与える印象が違ってくる。特に、「李祺旧蔵本」は一般的に言われている「九成宮醴泉銘」の特徴である「すっきりとした鋭い線で書かれている」という特徴ではない印象を持っているため、拓本の古典では特に「いつの時代のものか」ということを知った上で教材研究をし、偏った価値観ではなく、通俗的な観点にとらわれない授業実践を行うことが大切である。
- ・王羲之の蘭亭序についても同じことが言える。蘭亭序は真跡が残っていない古典である。行書の学習で学ぶ古典であるが、教科書に掲載されている「八柱第三本」だけではなく、その他の蘭亭序の諸本を見せ、実際に臨書させるなどということも授業を構成する上で一考して欲しい。

(2) 王羲之・顔真卿の書～実践を交えて、漢字仮名交じり書の授業展開

- ・王羲之の蘭亭序（定武本）の臨書。
- ・顔真卿の「郭虚己墓誌銘」の紹介。顔真卿は、肥瘦のはっきりとした文字を書いている印象が強いが、この「郭虚己墓誌銘」は、顔真卿が残した多くの古典とは、まったく異なった印象の物である。多様な価値観をもった教材研究は重要である。
- ・生徒の実態に即した漢字仮名交じり書の授業展開を行う必要がある。今を生活している生徒がどのように「書」と向き合うのか。生徒が興味を持っていること（言葉を含め）は何か、日頃から知り、それを表現する方法を身につけさせることが必要ではないか。

(3) これからの高等学校における芸術科書道の在り方について

- ・新学習指導要領が発表になったが、多くの高等学校書道教員が危惧していることは、「10年後」のことであろうと思う。
- ・国語科の中に、小中学校の「書写」のような分野が設けられているが、その部分と芸術科書道の教員がどのように関わりを持っていくのか、考えなければならないであろう。小中高等学校書写・書道だけではなく、高等学校国語科の学習指導要領も熟読して欲しい。芸術科書道は、「今までのようにこれからもずっと」という状況ではない。
- ・他教科とどのように連携を図っていくか、今までも鳥取県の書道の先生方は様々な関わりを持っておられると聞いているが、今後も検討して欲しい。

7 所 感

今回の研修は、高等学校芸術科『書道Ⅰ』の課題について講義いただくとともに、実践・研究協議を行った。日頃、大学において、教員養成の授業を担当されている先生であるため、新しい学習指導要領を視野に入れた授業のあり方をご教示いただいた。漢字の書の学習だけでなく、それをさらに深めた漢字仮名交じり書の学習の授業展開についてもお教えいただいた。今後の授業改革に繋がる、また、日頃抱えている悩み等を解決するための第一歩となるような大変有意義な研修となった。短時間ではあったが、非常にわかりやすく、充実した内容の研修であった。今回学んだことを早速実践に反映させ、さらに実践を重ね、成果を明確にできるよう会員で確認できた。今後も様々な研修を企画し、鳥取県の高等学校書道教育の充実を図っていきたい。

以下、参加された方々の感想をもとに成果を列記しておく。

- ・新たな書道教育のあり方を提示してもらい、若い先生方には大変参考になったと思う。他教科の内容・指導方法も学びながら、新たな視点で書道が学ばれることを期待したいと感じた。
- ・自分の教材研究の浅さを反省した。生徒に伝える部分はほんの一部だとしても、法帖の比較や教科書の内容検討など、もう一度初心に立ち返り深めていきたいと感じた。また、実技を交えた研修であったため、生徒の気持ちに寄り添った授業展開について考えることができよかった。
- ・自分の視点をもう一度見直して、授業を組み立ててみようと思った。
- ・既存の概念ややり方にとらわれることなく一つの対象をあらゆる角度から柔軟に捉え見ていく中で新たな発想や授業の展開が生まれてくるのだと感じた。
- ・非常にわかりやすく楽しい研修であった。鑑賞をして、自分が古典を一つの視点でしか捉えられていなかったことに気づかされた。
- ・日頃、授業内容や扱う古典が教科書に頼りっぱなしになっている点は気になっていたが、どのように工夫すればよいかわからなかったので、今回の研修は、授業研究の大きなヒントをいただいたように思った。漢字仮名交じり書の題材についても、指導が難しいと感じていたが、現代の自由律の句を例示することをぜひ取り入れてみようと思った。

